



## プロジェクトの概要

浜名湖では、2017年度以降アサリ資源が急減し、2024年度には漁獲量がほぼゼロとなりました。さらに2018年の大型台風により、湖内のアマモ場も広範囲で消失しました。

本プロジェクトは、2018年度以降、漁業者を中心に進められてきたアマモ場再生活動です。苗・種子の移植や播種など、地道な再生活動を継続した結果、アマモ場の面積は大幅に拡大しました。また、**小中高の総合学習の一環として子どもたちが参加し、アマモの植え付けや環境学習を通じて環境保全の大切さを学んでいます。**さらに大学、企業、自治体も資金的・技術的な支援を行い、**産官学民が一体となった協働体制**が確立されています。これにより、本プロジェクトは単なるアマモの再生活動ではなく、**地域社会がワンチームとなった持続可能なブルーカーボンプロジェクトへと発展**しています。



## プロジェクトの特徴・PRポイント

### 浜名湖という広大なフィールドとハイクオリティーブルーカーボンクレジット

⇒漁師・研究者・技術者が一体となり、確実性90-95%の高いクオリティーを実現



### 研究者・技術者が一体となったブルーカーボンクレジット測量技術の独自開発

⇒曳航式／自立航行式水中ドローンの開発、バイオマス量測定の革新的手法の確立



### 強いアマモを作る試み（浜松市水産学習施設ウォットと協力）

⇒アマモ消失の原因を様々な視点から検証し、浜名湖内各所で採取したアマモ種を交配させることで厳しい環境でも繁茂できる「強いアマモ種」を作る水槽実験の実施

⇒水槽実験で成長させた強いアマモ種や、浜名湖水路に残るアマモ種をウォット西側の実験圃場に移植・播種をしてアマモ種の苗圃場を作成



### 浜名湖アマモ探検隊ほか、仲間を増やしていくための啓発イベント

⇒浜名湖に隣接する施設を活用して啓発活動を実施

数十年にわたりプロジェクトを継続していくための次世代のリーダーの育成



### アマモ育成教室（浜松市、湖西市の小中学校の総合学習や高校での探究学習）

⇒アマモ場が消失しアサリ漁が壊滅した事実など浜名湖の課題を知る活動を実施

種を発芽させ、成長した苗を浜名湖に移植するなど、アマモ場での実体験を提供